

## 渋谷ラジオ #25「あれから、これから」

### その1「白鳥さんと鑑賞、PICFA 見学ツアー」第2話：PICFA 見学 ※約 75 分

出演 ゲスト・白鳥建二（全盲の美術鑑賞者、写真家）、岩中可南子（アートマネージャー、編集者）、原田啓之（医療法人清明会 障害福祉サービス事業所 PICFA 施設長）、ピクファ・メンバー（杉野はるか、笠原鉄平、楠原正隆、安永憲征、東島ゆきの、篠崎桜子、西依孝、鈴木靖葉、北村彰吾、包行想、加田有紀 ※作品紹介のみ、本田雅啓、中川原あすか）、進行・門あすか（東京都渋谷公園通りギャラリー）

（ジングル：ottotto「CLAP」）

門 みなさん、こんにちは。東京都渋谷公園通りギャラリーが配信する渋谷ラジオ「あれから、これから」の第2話です。ナビゲーターは、東京都渋谷公園通りギャラリーの門「ルビ：モン」あすかです。今回は、施設見学の前に、ゲストの白鳥建二さん、岩中可南子さんにお話をお聞きしました。ここからは、いよいよピクファの施設見学をします。案内は、医療法人清明会 障害福祉サービス事業所 ピクファ施設長の原田啓之「ルビ：ヒロユキ」さんです。原田さんとピクファのお話は、渋谷ラジオ「あれから、これから」の「2」で配信を予定しています。まずは施設がどんなところか、白鳥さん、岩中さんと巡る音声でお聞きください。その後に、原田さんのお話をお聞きいただくと、さらに楽しめますので、視聴者の皆さま、ぜひ期待してください。

門 改めまして、原田さん、今日はよろしくお願いします。

原田 お願いします。

門 今いるのは控室です。でも控室といっても、とてもゴージャス。

岩中 すごいですね。巨大な段ボールの壁があるんですけど、これは？

原田 これは、この前、40メートルの絵の依頼が来ていたので、40メートル分の絵を描くのに、立てて描いた方がメンバーは描きやすいので、10メートルの壁を作るために、段ボール、これ何個あるんだろうな。倍、ここを占拠していたので、描き終わって1列分は段ボール片付けましたけど、もう1列分が残っている。

岩中 40メートルって、すごいですね。

原田 6メートルとか10メートルとか、ホテルとか、あと外壁に貼るようになるとか、いろんなオーダーが来るので。

岩中 ここに置いてある絵は？

原田 これも今からまた納品する100号のサイズなんですけど、今からこれスタッフでちゃんと張って、これの上に絵を描くっていうですね。これも子どもたちと一緒にワークショップで描いた絵の上に、メンバーが描き足して納品するっていう作品になります。

岩中 キャンバスですか？

原田 キャンバスですね。これはペンキなので、表も触ってもらって全然OK。子どもたちと一緒に描いてるんで、ぐちゃぐちゃに重なってます、ペンキが。

岩中 さらにここに重なるってことですね。

原田 そうそう。

岩中 すごい色とりどりのカラフルな絵の具で描いてる。

原田 いろんな色が入ってますね。形も様々。

岩中 メンバーさんも、いろんな人が関わるんですか？一人じゃなくて。

原田 僕も毎回そういう依頼が来るから、ゴールわかんないんですよ。何ができるか。ただ23年こういうことやって怒られたことないので、だいたいセーフの作品を納めれてるかなっていう気はしてます。

岩中 終わり時が難しそうですね。どこで完成にするか。

原田 今、本当に巨大な10mの段ボールが4段組んであるんですけど、小学校とかでイベントやったら、これ、みんなで最後ワーって行って、ドーンと倒したりとか。アートのワークシ

ヨップってなると、ちょっと畏まってしまう。教育っぽくは僕やりたくないの、片付けもみんなでやるんだけど、正義なる破壊をやるっていう。通常、小学校でやると絶対怒られるよねっていうのを、ピクファだったら大丈夫っていうのをやる。

岩中  
原田

しかも、こんな大きい作品を描く機会も、なかなかないですね。  
なかなかないから。

こちょっと段があります。もともとここは託児所だったんです。病院の従業員のドクターとか。

岩中

従業員向けの。  
通路にも作品がたくさん。

原田

これはヤオキンさんって言って、うまい棒とか食べたことありますか？

白鳥

あります。

原田

ヤオキンさんからの依頼で。

ここが、6 畳もないかな。5 畳ぐらいの部屋になるんですけど。

岩中

「倉庫」って書いていてありますね。

原田

「倉庫」って書いてあって、もともとここはレントゲンを取るドクターがいて、実は、今こちらにガラスがはめ込んであって、向こう側の部屋が見えるようになってるんですけど、レントゲンを取る時に「右向いてください、左向いてください」って言ってた部屋。

岩中

奥が「暗室」って書いてあります。

原田

昔、レントゲンは暗室で撮影してたので。ここ、1 畳、2 畳ぐらいあるかな。真っ暗な暗室があるっていう。今、そこがストック。絵画の画材の板パネルとか紙とか、そういうのをここにストックしてる。あと、ワークショップで使う道具とか。ここを、棚を組んで置いてるっていう部屋になります。メンバーが新しい絵を描きたくなったら、ここに今キャンパスを置いてるんで。板のパネルに紙を貼ってるんですよ。これ全然触ってもらって大丈夫。これが S0 ってサイズ。小さいです。海外どこでも出せるようにしてるので、S0 とか F4 とか F8 っていう板のパネルに紙を水張りっていう方法で張って、みんなはそれに描いていくっていう。ここは今、そういう張ってあるやつと張ってないやつが混在してる部屋になります。

岩中

紙だけの。

原田

そうです。そうすると海外で展覧会やるときに、送ったときに向こうがすぐ額が用意できるっていう。サイズを同じにしているとですね。

白鳥

規格が同じだから。

原田

そうです。うちは絵画の販売も全部サイズで値段が決まるので、ここが、上に「撮影中」っていう看板ついてますけど、今入ってもらう部屋が絵画のストック。ここも棚が、めちゃくちゃいっぱい置いてあるんですけど。

岩中

描いた作品が保管されている。

原田

ここ触ってもらって。これが板パネル。1 個ずつプチプチに入っていて、その隣にパネル箱があるんですけど、これは箱に入るサイズ。さっき触ってもらった S0 とか、ちっちゃいサイズがここに収まっているので、白鳥さんが、ここから触ってもらった、この 1 列分ずっと。ここまでが、ひと作家の棚に入るサイズが置いてあるっていう。これは、**杉野さん** (<https://picfa-shop.jp/collections/sugino-haruka> ※外部サイト) の絵が全部入ってるラックになります。この前は、ケニアとかサンディエゴとか、海外からも、うちは見学に来たりとか、絵を買い付けに来られるので、人別にちゃんとまとめてサイズ別になってて。

岩中

すごい分類がしっかりされていて、ちゃんと外から見てもわかるように写真がついてたりとか。

原田

タイトルとサイズが、もう袋に貼ってある。それこそ、この前、公園通りギャラリーで展覧会 ([アール・ブリュット 2022 巡回展「かわるかたち」https://inclusion-art.jp/archive/exhibition/2022/20220716-145.html](https://inclusion-art.jp/archive/exhibition/2022/20220716-145.html)) させてもらうときに、この絵を持っていくというときに、ここでセレクトして、もう箱に入れたらすぐ運べる状況。

- 岩中  
原田 プチプチだと透明だから中も見えちゃう。  
本当は、湿度を保つためには入れない方がいいんですけど、ちゃんと空気が通るように、ビッチリは止めてなくて。今、音聞こえます？これ、除湿器。でかい除湿器を置いてるんで、湿度を少しでも。もともとここがレントゲン室なので窓がない。紫外線は基本的にカットできるので、これで保管庫をしてるっていう。
- 岩中  
原田 すごい。ギャラリーとか美術館の保管庫みたいな。  
バックヤードみたいな。この棚とかがめちゃくちゃ高いんですよ。こういう棚が。だから結構もらってます。いろんな人がくれたりするんで。ここが、一応 20 人分の絵が置いてあるっていうですね。サイズが S0 から、ここに置いてあるのが F50 までの作品が置いてあるんで、F100 とかになると、もう 1600 とか 1m60 くらい超えてくるので、それはまた別のところにデカモノシリーズで。10m の絵とかはクルクルっと巻いて、キャンパス巻いて保管してたりとかっていう場所になります。
- 岩中  
原田 そのままこっちに行こうかな。白鳥さん。ここ壁があるんですけど、ここに板パネが置いてあって、廊下に作品を飾っている。これすぐ取れちゃうんだけど、画鋸を 2 つ打ってて、ここにかけてるだけ。廊下にかなりたくさんの数を置いてるっていうですね。それを作家別に置いてるので、見学に来られた人が絵見て楽しんだりとか、あとは、かかってるやつを買って帰ったりとか。
- 岩中  
原田 キャプションが全部ついてて、あと人の説明が作家さんのプロフィールと顔写真と入ってて、作品のタイトルと、ここに値段も描いてある。全部ここに収まっている。
- 白鳥  
原田 分かりやすい。  
岩中 人別で廊下の壁は全部埋まってる感じですね。  
原田 これがメンバー全員分？  
岩中 全員分ですね。  
原田 今って 20 人？  
原田 今、定員が 20 人で、就職する子とか A 型っていう施設に行ったりもする子が決まったりしたので、今 18 人。額装したものとかいろいろ置いてる。両側に、病院なんで手すりがあるんですけど。
- 岩中  
原田 向かい側にまたパネルがあって、これはピクファのこれまでの実績ですか？  
岩中 お仕事の実績をちょっと一部だけ貼ってるような感じですね。  
岩中 お店の店内の壁画とか、うまい棒の作品展？さっき出た、うまい棒の作品展の写真とか。さっきも入り口で見た日本酒のパッケージのやつとか。ノベルティとか。すごいですね、その量。
- 原田  
白鳥 それこそ日本福祉大学の封筒。大学から出す封筒のデザインもうちがやってる。  
原田 さすが。  
原田 壁画も、うち仕事なので、今日の前にでっかい写真があるんですけど、4 階建てのビル。前面に足場 8 段組んで、命綱つけて、ヘルメットかぶって、壁画を描くっていう。障害がある人たちも上がりたい人は上がるので、うちのメンバー全員分とスタッフ全員分は、命綱とヘルメットは全部揃ってる。
- 岩中  
原田 そうなんですか。これも合作というかみんなで描くのね。  
原田 ボランティアを募集して、子ども連れでお母さんたち来たりとか。もしまた 8 段ぐらい、足場 8 段ってなると 20 メーター以上なんですよ。20 メーターってそんなに高くない感じはするけど、実は下向くと、意外と車も 20 メーターでも小さく見えて、結構風が変わる。空気感みたいな。足場に登ると。今度ちょっと 4 階建てぐらいやるときは、白鳥さん連絡するんで。
- 白鳥  
原田 いいですね。  
原田 ちょっと 20 メーター剥き出しでっていうのは、結構いいですよ。あとはコンビニのローソンのコーヒーカップのデザインとか、うちがさせてもらったりもしてる。コンビニって今、コーヒーって結構、コンビニ入ってすぐに置いてある。一番広報ができるツールにな

るんですけど、それをローソンさんがお仕事でくださったりとか。

今からいよいよアトリエに入ります。

岩中  
原田

お邪魔します。

テーブルが4台置いてあって、ちゃんと座ってここで描いてるのは笠原君 (<https://picfa-shop.jp/collections/kasahara-teppe> ※外部サイト) ですけど。実は、ちょっと今、笠原さんが、今日、病欠でお休みなんですけど、描いてる人と、あと今人がいない理由があって、それぞれテーブルは決めてるんですよ。ただやっぱり作家なので、描きたい場所は自分で選んでいいよって言うてる。今からまたご案内する「多目的室」とか「SP」とか、ちょっとおしゃべりしながら描ける空間も作ってるので、今いない人はそっちにいて描いてるような状況です。

岩中  
原田

ここにも壁にレコードがかかっている。

そうそう。レコードを入れるこの黒い枠にレコードがはまって壁にかけてるんですけど、それを大量にもらったんですよ。じゃあ入れようねって。スタッフが持ってきたレコードとかに。

岩中  
原田  
白鳥  
岩中

これは作品じゃなくてレコードなの？

ただ、2つ作品が紛れてる。

それは絵があるの？

絵が同じ木枠の中に収まるぐらいのサイズで丸い作品と、さっきのSサイズの絵が入りますね。ここにも絵があった。

原田  
岩中  
原田

意外とみんな気づかない。

ジャケットに紛れてる。

昔ここにレコードを置いてたんですよ。音楽好きの子がいたので。それでレコードがすぐかけられるように置いてたっていう。今さっきの一番最初の広い部屋、託児所。あそこ名称が「リビングルーム」って付けてるんですけど、リビングルームにゆくゆくは、DJブースとレコードも下に置いて、音楽そこで聴いていいよっていうのと、子どもたちが遊びに来るんで、レコード見たことない。なんかそういうのをしたりとか。あと、白鳥さん、世代やったかな。野球盤やったことあります？

白鳥  
原田  
白鳥  
原田

もちろんあります。

それがここにあって。懐かしいよ。これ野球盤ね。ちゃんとフォークボールになるやつ。

いいですね。

アナログのゲームも、うち結構置いてるんですよ。これ昔、サッカーとか横でガチャガチャやったりとか。いろいろあるんですけど、それを、地元の人が持ってきて、くれるんで、これで小学生と対決するみたいなことも仕事ですっていうのでやってるっていう。

岩中  
原田  
岩中  
原田

仕事の一環。

仕事の一環です。

就労のお仕事？

もちろん。大事な仕事ですよ。ただ手抜くなと。泣きわめこうが何しようが絶対勝つっていう名の下で勝負をするっていう。

岩中  
原田  
白鳥  
原田  
白鳥  
原田  
白鳥  
原田  
白鳥  
原田

本気なの。

そう、本気。

俺、子どもの頃はこれ音でやるんですよ。

音が鳴ってたの？

音が鳴ってたんじゃないくて、これ、球が出るときに音がするじゃん。ガチャって。

それでタイミング測ってたの？よう打てるね。

この消える魔球を避けるために、こうやって、ここで、この手前のところで止めて。

で、離すの？なるほど。なるほど、テクや。

っていうのをやってました。

俺ちょっとね、消える魔球をどう対策してたんだろうなと思って。僕たちね、視覚的に。

ただこれね、見えても打てんちゃ。意外と球早いけん。  
白鳥 こうやってやれば打てるんですよ。  
原田 意外といけるの？  
白鳥 ここからスタートするんですよ、だから。  
原田 当たる？  
白鳥 ファウルくらいには。  
原田 なんとか空振りは免れる？  
白鳥 そうそう。  
岩中 ちょっと対戦してほしいですね。  
原田 それを小学生には内緒でうちのメンバーだけ教えておこう。ボール対策。  
岩中 伝授して。  
原田 やっぱり情報が一番大事ですから。  
白鳥 そうそう。  
原田 楠原くん (<https://picfa-shop.jp/collections/kusuhara-masataka> ※外部サイト)、今、何描きよう？  
楠原 えっと、ミルクティーと天秤を組み合わせた「ティーン瓶」っていう。  
一同 ティーン瓶！？  
岩中 すごい、でも繊細な。  
楠原 で、紅茶と。これミルクティー。描いてるのがミルクティーなんですけどね。一応そういう紅茶と、紅茶の天秤っていう感じです。  
岩中 天秤の両端に紅茶のポットが吊られてて、その紅茶のポットから。そのコップに入れて。下にコップがあって、ミルクティーが注がれて。そういう感じです。  
門 片っぽ紅茶で片っぽミルク？  
楠原 はい。  
岩中 で、あ、そっか、ミルクティーが出来上がる。  
楠原 そういうことです。  
岩中 なるほど。  
原田 なんかね、文字をいじったりとか、何かを掛け合わせたりがすごい得意な人なので。これ、隣は何？  
楠原 これはポップコーンとピーコックを組み合わせたものです。  
原田 なんて読むと、それ？  
楠原 実際文字の部分を中心に描いてるように見えて、実はピーコック、つまりクジャクが隠れてるんです。  
原田 ほんとだ。なんかよく見ると、Oの形してるんだけど、アルファベットのEに見えるように描いてますね。こういう文字遊びがすごい得意。あと相当力持ちなので、うちが重たいものを運んだりとかは、結構率先してやってくれる。  
岩中 クジャクの頭にポップコーンがついて飾りのように。後ろにもポップコーンが散りばめられてて、すごい可愛い。  
白鳥 面白い。  
原田 僕たちも見ただけじゃ彼の作品って、実は分かんないこといっぱいあって、だから必ず出来上がったって聞いて「ああ、なるほどね！」みたいな。  
岩中 謎解きみたいな。  
楠原 そういうことです。  
岩中 ありがとうございます。可愛い。  
原田 隣に行きます。今、廊下から1部屋入ってきたんですけど、今から、ここ1部屋目、2部屋目、3部屋目って、部屋の中を歩いていけるんですよ。扉もある、ほんと壁もあるのに。これ、何でかっていうと、もともと病院をそのまま使ってるので、看護師さんがここ行き来してたところ。個室にはなってるけど奥で通れるみたいな。よくカーテン、シャッシャ



岩中 ッって閉めながら。そこを今から通っていくっていう感じね。  
原田 内側が大きいガラスになってるから、明るいですね。  
岩中 左側が。  
原田 こんにちは。  
安永 ここは、基本4人で絵を描いてる部屋になります。  
原田 これだよ。  
「これだよ」って、今、人物画を描いてる安永くん (<https://picfa-shop.jp/collections/yasunaga-noriyuki> ※外部サイト) がいますけど。身長が187センチあって、3人兄弟で、男3兄弟で一番背が低い。まさかの。  
岩中 ピンクが背景の絵を描いてますが、ドラマーと、その前に横になっている金髪の女性の絵を描いてますね。写真を見ながら描いてるんですね。  
原田 彼の絵は男性が太眉で、女性は細眉で、まつ毛があるっていう、その違いだけで攻めてる。  
岩中 この人はサングラスかけて眉毛が見えない。  
原田 フィンランドのブランドで、マリメッコっていうブランドと彼はコラボしたりとか。  
岩中 そうなんですか。これはもしかして、ご本人の？  
原田 それも熊本のクリスマスフェスっていう、クリスマスの熊本県にあるでかいイベントのノベルティ。ホットワインを売る時のカップが彼のデザインになったんで、そのサンプルで作ったやつを、今、前に置いてる。  
岩中 人の表情がかわいい。  
原田 うちは色んなところ、企業からの仕事はかなり入ってくるので、結構色んなことをやってます。  
今、白鳥さんの向いての方に3人女性が座ってて。東島さん (<https://picfa-shop.jp/collections/higashijima-yukino> ※外部サイト)。  
東島 はい。  
原田 今、「はい」って返事してくれた方が左手。ローソンのコーヒーカップの花柄なんですけど。  
岩中 本当だ。実際に商品になったものも置いてある。  
東島 花柄です。カラフルに描けます。  
岩中 色とりどりの。  
原田 さっき触ってもらった板のパネルの縁まで絵を描く。ぎゅうぎゅうに。  
岩中 側面、横も描いてる。  
原田 だんだん細くなってきょうね。最初入ってきた時よりかはね。  
岩中 色塗ってから、ペンで線を描いてる？  
東島 そうですね。まず全部、塗ってからペンで描いてます。  
岩中 パターンみたいな感じで色の塊の上に、花の花びらがあったりとか葉っぱの模様があったりとか。グラフィック的な、面白い。  
原田 本当に彼女は優しいので、後ろに先ほどいた身長が高い安永くんが困れば、すぐ、ささって、女将が動いてくれる。いろんなこと手伝ってくる。絵が優しい。ぎゅうぎゅうしてて密度は細かい絵を描いてるけど。優しい雰囲気が漂う。  
門 色がすごく綺麗です。  
原田 本当にカラフル。  
岩中 これシルバーですか？  
東島 シルバーです。  
岩中 ゴールド。  
門 組み合わせが、色がいっぱい使われているのに、優しくて。お洋服で着たい。  
岩中 こんなワンピース。  
原田 ワンピース作りたい。できたら俺と白鳥さんでまず着よう。いけるかもよ。

門　　こういうドレスシャツとか素敵。  
原田　ジャケットの裏地とか。  
岩中　かわいい。  
原田　今、右手にるのが杉野さん (<https://picfa-shop.jp/collections/sugino-haruka> ※外部サイト)。今ちょっと逆さにして描いたね、絵をね。  
岩中　猫と花のモチーフが合体したような。しかも、猫の奥に重なってキッチンの食器棚とかが見えて。重なってる絵。花の花柄とキッチンの絵と猫が3層に重なって。でも透けて猫のシルエットの中に台所の風景が見えるみたいな。すごい不思議な。  
門　　多重露光の写真みたいな感じ。  
岩中　猫のちょうど頭のところに電球があって。豆電球が光っている。すごく細かいタッチで綺麗。  
杉野　青いお花が全面的に敷き詰められていて。黄色いパンジーが4つと紫のパンジーが1つあります。  
原田　実は杉野さんは字も上手くて、書道の師範を持っているので。  
岩中　花も一個一個すごく細かいですね。  
杉野　大きい青いお花と小さい青いお花がいっぱいあって。  
岩中　この食器棚の上に置いてあるチュールみたいな。  
杉野　お菓子です。このお菓子をメインの猫ちゃんが狙っているような感じのポーズで描きました。  
岩中　猫から見た視点みたいな感じにも見えるし、重なり合っていてすごく不思議な世界観。面白い。  
原田　その右側にるのが篠崎さん (<https://picfa-shop.jp/collections/shinozaki-sakurako> ※外部サイト)。女性の人物画を描いていることが多いですね。  
篠崎　今は、カラフルな点々で色を塗っていて。影をあえてピンクとか赤の暖色系にしてみたり、アウトラインを青とか紫の寒色系にしたり、髪の毛のハイライトを黄色っぽいので塗ってみたりして。乾いているので全然触ってもらっていいんですけど。ちょっと凸凹してて。  
岩中　輪郭のところが、すごい小さい。  
篠崎　ちょっと上の方に行くとここが凸凹してて。たぶん触っていて面白いかなと思うんですけど。  
門　　色面だけでなく、輪郭線も点々で。  
岩中　眉毛とか細かいところも全部点描なんですね。  
篠崎　目も点描です。  
岩中　これが肩のラインで。ここがフェイスラインで、顔で。この辺が目のまつげとかが点描で描かれて。  
岩中　この後、全部点描で埋めていくんですか？  
篠崎　全部点描です。気が遠くなる作業を自らしていこうと。  
岩中　1枚描き上げるのにどれくらい時間かかるんですか？  
篠崎　この画風、今回が初めてなので、読めないんですよ。今までは、女性のシルエットにカラフルな色を塗ってたので、その時は、大体1ヶ月か2ヶ月かかってたんで、これたぶん、もっとかかると思う。3ヶ月以上かかりそうな気がしますね。  
門　　壁にメッセージが。  
岩中　本当だ。「見学者さんへはじめまして。おしゃべり好きの篠崎です。たくさん話しかけて大丈夫ですよ」。そうなんですね。  
篠崎　おしゃべり好きなんで。  
岩中　こういうことが書いてあると話しかけやすい。  
篠崎　そうだろうなと思って。見学者さんって、気遣って話しかけてこない方いらっしゃるんですけど、絵とかについて聞きたいことってあると思うので。そういうの全然説明できるの

で、話しかけていいですよって書いてるんですよ。

岩中 すごい、筆も細い。

篠崎 そうですね。触りますか。

岩中 ありがとうございます。これで、先っぽが、この筆の先っぽが。

白鳥 本当だ。

篠崎 細いですね。

岩中 これ同じ筆使って全部描いてる？

篠崎 これと輪郭線は、もうちょっと太い、こちらですね。

白鳥 最初のは細いね。

岩中 最初のすごい細かった。ありがとうございます。

門 0号とか？

原田 そうですね。あとは自分で。それよりも細いものが欲しかったら、ハサミで切ったりとか。カスタムして。うち、絵画の技術指導って一切しないので。画材だけ用意しておいて、あとどうぞ〜で、みんな描いていくので。教えてるでしょとか、教えてないとか言いながらスタッフが描いてるんじゃないかと言われるんですよ。あと、絵の上手い人ばかり集めたんじゃないかって言われるけど、もう本当に順番で入ってきた人たち。ただ、絵が好きとか、あと、表現、なんか描く、壊す、何でもいいので、何か行為が好きな人が来てるので、その積み重ねで、どんどん変わっていくっていう感じですね。

岩中 でも、描き方とか技法は、もう自ら、ご自身でやられてる？

原田 そう、自分で見出す。あと、さっきも言ったけど、子どもとか大人も遊びに来ると、アーティストも遊びに来るんですよ。海外とかからも。一緒にワークショップしたり、ゲリラ的にライブペイント始まったり、コラージュこんな方法あるよっていうのを一緒にやってみたり。そういうところで刺激受けたりとか、作家同士の交換、喋らなくても、なんかやってれば、こんなやり方あるんだとか、その糊使わない方がいいよ、こっちの糊の方が引っ付くよとか。教えてくれたりとか。

岩中 こういうところもみなさん一緒にやってるから、お互い見て刺激受けたりとか。

原田 それもありますね。本当に、僕たちが言うのは、片付けだけは、意外とうるさいね。篠崎さん、ね？

篠崎 私？

原田 いやいや、みんなに。片付けは、筆を綺麗に洗うとか、デスクの上をちゃんと片付けるとか。あとはパレットって結構洗いにくいんですよ。今使ってる、篠崎さんの点々の絵とかもそうだけど、アクリル絵の具っていうのを使ってるので、固まるんですよ。だから、ちゃんと洗わないと使えなくなる、いろんなものが。だから、それはもううるさく言う。これ、なんでうるさく言うかっていうと、だいたい親が先に死んじゃうので、いずれ一人暮らしをするために、いろんなお金貯めたりとかしてますけど、いわゆるその時に、お皿を洗うとか、お箸を洗うって、固まるパレットを洗ったりとか、細かい筆を綺麗に固まらないように洗うっていうのができれば、お皿を洗うとか完璧なんですよ。それ実は、アートをやってる理由って、そこにあって。

岩中 生活にもつながってくるんですね。ありがとうございました。

原田 その次、隣に行きます。ここは、だいたい3人が使ってて、今、白鳥さんの後ろにデスクがあって、そこにパソコンが置いてあるんですけど、ここはスタッフが一人います。デザインとかを担当するスタッフが、ここにいる。基本的に僕たち職員も、事務所は別にあるんですけど、メンバーがこっちにいるピクファにいる間は、基本ノートPCとかを持って、メンバーの隣のデスクとかで仕事を全員してます。事務所に戻ってことは基本的にないですね。今、ここにまた人がいないのは、また自分の部屋でやりたくなくて、広い場所でやりたいっていうので移動してやってる。お二人いらっしゃいますね。彼は、西依さん (<https://picfa-shop.jp/collections/nishiyori-takashi> ※外部サイト) ですね。

岩中 こんにちは。



原田　　また西依さんの絵が細かいですよ。  
岩中　　本当だ、風景を描いてますが、色鉛筆で描いてるんですか？どこの風景を描いてるんですか？  
西依　　埼玉県。  
岩中　　あ、埼玉。  
原田　　実はこれ、下描きなんですよ。  
岩中　　あ、そうなんですね。  
原田　　ちょっと持ってくるんで、話しよってください。  
岩中　　写真見ながら。そっか、下絵なんですね。山と川と、キャンプ場ですかね？自然の風景を、柔らかい色で。なんでこの場所を選んだんですか？  
西依　　たまたまインターネットで、ニュースが出てて。  
岩中　　見かけた。奥に綺麗な山があって、空が開けてて、見晴らしがいい。  
原田　　西依さん、この原画持ってきたんやけど、これアクリルやけん、白鳥さんにちょっと触ってもらっても？どれぐらい細かくのせてるかっていう。実はね、今描いてる色鉛筆の細かい絵は下描きで、それを清書すると、こうなるんですよ。ちょっと表面で尖ってるところもあるんで。  
白鳥　　おお、すごい。  
原田　　風景を単色で塗らずに、色を置いていく感じやね、筆でね。どっちかという点描に近いんだけど。  
白鳥　　ボツボツって感じだもん。  
原田　　結構盛り上がったりとか。通常こんな感じでやるのって、油絵の具とか使うんだけど、彼はそれをアクリルでやるので。  
岩中　　空の表現は、またちょっと違う感じですね。  
原田　　上が空で、雲とかはそんなに凸凹してない。  
岩中　　空はそんなに重なってない。この辺は、木々とかはすごい重なってて、ここもモリッと盛られている。  
白鳥　　お、これすごい。  
岩中　　厚みが。  
白鳥　　ポコって感じ。  
原田　　結構時間かかるよね、西依さんね。これ乾かしながら描いていく。彼はドライヤーで一気に乾かしたりとかしないので。時間とともに乾かしながら描いていくっていう。これがサイズの的にF8あるのかな。  
岩中　　色味も面白いですね。紫とか。  
原田　　下描きを描いて、このサイズで描いていくまでに結構時間かかるよね？4ヶ月くらいかかるかね。さっきの東島さんって、カラフルな花を描いてた子は、2日？3日？で描いていくけど、西依さんは、3、4ヶ月だよ。これくらいのサイズになったらね。人によって全然スピード感も違うっていう。  
門　　途中で違う作品に取り掛かったりとかはないんですか？  
原田　　西依さんはしないんですよ。  
西依　　別の仕事が。  
原田　　あ、仕事のオーダーが来たとき。  
西依　　めったにないです。  
原田　　デザインで企業からのオーダーとか。西依さんの絵を見て、これを描いてほしいって写真持ってくる人もいるんで。そういう時は、そっちのオーダーを先に進めるっていう流れを。あとは、彼は勉強家なので、心理学とか哲学とか、量子力学とか、理系でも何でも勉強好きなので。うちは3コマ目。1コマ目が10時半から12時まで、お昼休憩として1時から2時まで、2時から3時まで、3コマに分かれてるんだけど、2時から3時までは、勉強とかそういうのをしたい人は、それを仕事とみなすっていう風にしてるんで、僕が開い

岩中 たら秒で眠たくなるような哲学書とか量子力学とか。  
原田 本が積んでありますね。  
門 今はイラストレーターとかフォトショップを学びたいっていうので、その参考書が山積みになっているのかな。  
原田 パソコンで描くんですか？  
岩中 『基本からわかる電子回路』…読みたくねえ。結構分厚いですよ。勉強家です。  
原田 それがどういう作品になるのか楽しみですね。  
岩中 そっち抜けてもらって、左に曲がってもらっていいですか？  
原田 こういう刺繍の作品もあるんだ。絵画が多い中で刺繍の作品も。  
原田 刺繍はね、今日、鈴木さん (<https://picfa-shop.jp/collections/suzuki-yasuha> ※外部サイト) がいるので、後で紹介しますね。先にこっち行こうかな。今から入る部屋が「大作業室」って言って、ちょっと広い空間になっています。ちょっと温度変わりませんか？ここ実はエアコンが壊れているんです。ただ何でもこっだけ独立しているのかというと、実はここ、元オペ室。だから、この部屋だけタイル張りなんです。何でタイル張りかというのと、血液が飛んだりとか、いろんなことが起こり得るので、掃除がしやすい、水で流せる部屋というのがここになっている。ここ触ってもらって全然大丈夫なんですけど、でっかい扉があるんですよ。これをグッと押すと外に出れます。ここが救急車が停まる場所。ちょっと屋根が突き出ているので、そこに救急車が停まって、ストレッチャーを下ろして、ここでオペ。  
岩中 今は搬入がしやすい。  
原田 そう、めっちゃ搬入しやすいですよ。だから本当に病院って使いやすい。  
岩中 意外と美術と相性がいいんだ。  
原田 本当に命の導線ってすごく使いやすいなと思った、ここに来て。  
ここにテーブルが。  
岩中 オペ卓があったってこと？  
原田 上に電気があった跡があって、今、白鳥さんが触っているのがテーブルなんですけど、これ卓球台なんです。小学生とかが遊びに来たら、ここで卓球をするっていう。一応、仕事の一つっていうので。これも、子どもが泣き叫ぼうが何しようが絶対に勝つっていう。大人の厳しさを伝える場所。だいたい横が5m ぐらいいは優に取れるので、チャンネルシティっていう福岡の商業施設とかからオーダーがあって、5m の絵描いてくれとかっていうのはだいたいここで描いたりとか。あとはスプレーで絵を描く子もいるので、いわゆる汚していい部屋、「飛ばし部屋」って僕呼んでますけど。スプレーを使っているんで、壁に全部養生してて、スプレー跡がいっぱい残って、ちょっとスラムみたいなね、海外みたいな感じなんですけど。これがね、北村くん (<https://picfa-shop.jp/collections/kitamura-shogo> ※外部サイト) っていう子がスプレーで絵を描くんなんですけど、ステンシルっていう、自分でイラストを作ってそれをカッティングして。これ、女性の顔にね、ちょっと触っただけじゃわからないんだけど、実は女性の、  
岩中 あ、ここに目がある。  
原田 目があるんですよ。これにスプレーを吹きかけると、この抜けているところにスプレーが染み込んで、これを剥がすと絵が出てくるっていう。こういう感じで出てくるんですけど。  
岩中 人の顔だ。  
原田 これを全部カットされてて、気が遠くなるような作業。これ全部、手作業でカッティングしてるんです。  
岩中 手作業ですか？  
原田 こんな作業してる子もいますね。  
門 さっきの養生の壁も、すごい素敵なグラフィティみたいな。  
原田 あれだけ売ってくれてっていう人の中にはいる。そんなことまでしようと、すごい阿漕な商

- 岩中 売になるので、やってないけど。意外とね、年に4、5人売ってほしいっていう人もいる。  
原田 入口に貼ってある作品がカッコイイ。作品というか。  
これね、テスト。彼のテスト。これも触って大丈夫。スプレーを振った後に折り曲げたら  
どんな見え方をするかっていうので。今、紫のグラデみたいに見えるんですけど、多分2  
種類の紫、何種類かの紫のスプレーを振り付けて、それをぐちゃぐちゃに谷折りとかをし  
たら深くなるかどうかを、多分見たんだと思います。
- 岩中 陰影がはっきり映ってますね。ここにはグッズが並んでますね。Tシャツとかバッグと  
か。入口にもあったような。これプロダクトは、これもコラボ商品ですか？  
原田 リュックサックとか小物入れは~~中国~~のブランドとコラボしてて、世界4カ国で発売開始に  
なっている。あと化粧品メーカーさんとハンドクリームをコラボしたやつとか。以外は、  
全部うちのオリジナルの作品。  
ちょうどさっき言った、スプレーで絵を描くカッティングした北村くんが通りかかったん  
で。
- 北村 こんにちは。  
原田 カッティング、その壁に貼った女性の絵、あれってカットだけでどのくらいかかるか  
ね。
- 北村 1週間くらい。  
岩中 どうやって、あれを絵にしているのが全然。ストライプみたく見えるけど、離れてみると  
女性の顔になってて、どうやって、ああいう絵柄を作るんですか？  
北村 一度パソコンでデータを作って。  
岩中 パソコンでデータを作るんですね。  
原田 彼はもう本当いろんな部品集めてパソコン作れるような人なので。だからイラストレー  
ター、フォトショップとかは、すぐいろんな加工ができるんで。一部、職員がデザインが立  
て込んだりとかした時に、「ちょっとここだけ抜いてほしい」とか、「ちょっとこ  
れ、こういう案件来るとして、北村くんのデザインをそのまま使うんやけど、これをこのサ  
イズに落とし込んどってほしい」というPC作業は、時々、もうデザインの仕事が火吹い  
てスタッフが火吹いてるときは、一緒に動いてもらう。
- 岩中 デザイン作業もやるんですね。  
原田 そうです。  
ここがまた、いろんなところに行ったり、今日お休みだったりしてるんですけど。
- 岩中・白鳥 こんにちは。  
原田 朝礼で結構喋ってくれた、  
岩中 前に座ってた、  
原田 包行さん (<https://picfa-shop.jp/collections/kaneyuki-so> ※外部サイト) です。彼って本当  
に優しくて。色鉛筆と鉛筆で。包行さん、ちょっと後ろ下がってくれる？ 体だけ。ちょっ  
と絵見せて。
- 岩中 色鉛筆と鉛筆。点描って言ったら、細かく鉛筆を優しいタッチで、てんてんてんてんって  
描いて、埋め尽くされて。  
包行 触ってもいいです。  
岩中 触ってもいいんですか？  
原田 でも色鉛筆だからボコボコになってない。  
白鳥 そうだね。  
原田 色鉛筆と鉛筆でずっと描いてるんで、どんどん擦れていくんですよ。だから線がグレーが  
かってくる。
- 岩中 あ、そうですね。線がちょっと擦れて、にじんだような。  
原田 包行さん、これ、今どのくらい描きようかね？  
包行 1年  
原田 多分1年半は経つよ。実はこの人、包行さんのすごいところが、これをA4で下描き描いて

岩中 門 原田 岩中 包行 岩中 門 原田 包行 原田 包行 原田 包行 原田 岩中 原田 包行 原田 岩中 原田 岩中 原田 岩中 原田 白鳥 原田 門 原田 白鳥 原田 岩中

るんですよ。下描きも同じ手法なので、多分2年以上描いてる。  
人が何人かいて、川遊びしてる様子なんですわ。  
色に深みが出て。  
どんどん重なっていく。玄人向きの絵を描くというか。  
これは完成まで後はどういうことするんですか？この辺も描くんですかね？  
ここは大変なので、適当に描きます。  
ここが続いていく感じ。  
じゃあ、もう全部埋め尽くされていく予定？  
だからあと半年以上かかるね。  
そうですかね。  
次のオリンピック来るんじゃないの？  
オリンピック来ますかも。26年に冬季ですか？それとも夏ですか？  
どっちに間に合わせる？  
じゃあもう冬季で。  
嘘やん、絶対嘘やん。絶対間に合わないやろ。嘘やん。本当にコツコツやってくれるのと、絵もそうなんだけど、盛り上げ役なので、彼の明るさに救われてるうちのメンバーは  
かなり多い。  
すごい鉛筆のタッチがちょっとぼやけてて、幻想的っていうか、中に引き込まれていくような不思議な感じです。  
面白かったのが、企業の案件で、絵を使って広報紙を作るみたいなの、それが中吊り広告、今日皆さんが乗ってきた電車の中吊り広告になったり、それが3年くらいやってた時に、社長さんが包行さんの人柄に惚れてしまって。その時の中摺は、絵じゃなくて、包行さんがバーって踊りながら描いてる写真が、その企業広告になって、その電車に乗ってくるんです、彼は。出勤と退勤を。それがピクファの面白さ。本当だったら絵で仕事来たのに、最終的に本人登場みたいな。その電車に乗ってきて「あれ？この人あれ？」みたいな。  
全然気づいてないです。  
気づいてない？それ自分だけよ。  
ありがとうございます。  
あと、ここに加田さん (<https://picfa-shop.jp/collections/kada-yuki> ※外部サイト) っていう子がいて、ジャニーズ大好きな子が。だいたい描く時は、ジャニーズの写真をここにいっぱい置いてて、これをテーブルに広げてから絵を描く。  
描いてるのはジャニーズではないんですね。かき氷の絵を描いてて。  
ジャニーズではない。  
かき氷の絵もすごい面白いです。かき氷の氷の粒が、一個一個、何ですかね、コーヒー豆みたく、ちっちゃい粒がいっぱい描いてあって、その重なりに。  
これも半年くらい描いてる。  
そうなんですか。氷の粒を描くってすごいですね。  
ラメ入りのペンで描いてるんで。  
すごいな。  
細いペンで、とんでもない広さの背景を塗ってるんで。  
パネルを外した後ろの色鉛筆がすごい。  
彼女、色鉛筆も使うんですけど、彼女だけ500色の色鉛筆使ってる。だいたいみんな100色なんです。彼女のファンの人が、多分色数が足りないんじゃないかって言って、500色の色鉛筆をプレゼントしてくれたっていう。こんなメモとかんでいいのに、どこに何色が入ってるか500色のあれを全部、付箋紙に書いてるんです。豆粒みたいな字で。  
面白すぎる。  
今ここに刺繍を置いてるんですけど。  
触っても大丈夫ですか？

原田 これ大丈夫。  
岩中 すごい。これはホットケーキかな。ハッピーって書いてある。こっちが大きい作品が隣に。  
門 パネルで。  
原田 これいろんな刺繍の仕方をしてるので、これは密度が濃い感じ。こっちはモフモフ。これはコアラって動物の毛を表現してて、鳥がここ飛んでるので羽があって尾っぽが立体的になってる。これが尾っぽ。  
白鳥 あ、ほんとだ。  
門 刺繍じゃなくて編みである。  
原田 だからもっといけば、この辺はもっと葉っぱの形のところは、もっと緑一色でしてたりとか、葉っぱがあって、茎。これ茎。また花びらがあって、また茎。これ何種類使ってるのかな刺繍の技法。  
岩中 ここも線だけで表現されたりとか。  
門 花もいろいろだけど、動物がすごくたくさん隠れてて。  
原田 カメレオンとかね。カエル、トラとか。うち、刺繍誰もできないんですよ、スタッフは。刺繍の本買って図柄を見て、それを試してやる。それでここまで作る。今度10月にやる1万人くらい毎回来てくれる展覧会に、これは出展予定。さっき触ってもらった、ちっちゃい方の作品も。今どんどん貯めてる状態。これも半年以上かかってるかな。全面刺繍してるんで。ポストカードサイズぐらいの、さっき岩中さんと触ってもらったぐらいのサイズは、3日、4日で最近やるかな。めちゃくちゃ早くなってる。  
門 ピクファに来て、どんどん仕事が。  
原田 刺繍は入ってきた。刺繍とか編み物やりたいから始まってって、それが作品になってるっていう。やっぱ好きって強いなと思う。時間と技術力みたいなのを、苦にならずにカバーしていくみたいな強さは、好きって強いなって思う。  
その横が、本田さん (<https://picfa-shop.jp/collections/honda-masaharu> ※外部サイト) の絵があって、彼は幾何学模様を組み合わせたりとかするんだけど。触ってわかるかな。これ多分そんなにわかんないかも。結構ベタ塗りなんですよ。ちょっと今まで触った作品とちょっと質感が変わるんですよ。彼、水性のペンキを使ったりして描いてる。みんな、ほとんどアクリル使って描くの。なんで彼は水性ペンキなのかっていうと、壁画とかで余ったペンキを僕たち持って帰るんですよ。それを捨てるのももったいないって言って、余ったやつを組み合わせれば描いたりとかする。だから、ちょっと彼のテカってるんですよ、これはペンキだから。他の人は結構マットな絵なんですけど、それはアクリル絵の具だから。その違いが出てくる。彼は、フランスで展覧会8回。フランス美術協会の会長とフランス政府が彼を大好きで。お菓子のマドレーヌの語源になったマドレーヌ協会っていうのがあるんですけど、そこの地下に王室の間っていうのがあって、3部屋。通常、そこ入れないんですよ。ただ、本田さんの絵を展示するためだけに、王室の間をフランス政府が開放して、パリッ子がなだれ込んで、本田さんの絵を見るっていう。門さんも、本田さんの絵を愛してくれてて、渋谷公園通りギャラリーで、本田さんの展示してくれたり。  
岩中 街歩きもしましたよね。（「本田まさはるさんと、街ぶらライブペインティング」  
<https://inclusion-art.jp/archive/event/2022/20220416-138.html>）  
原田 僕は、彼と19歳から一緒なんで、23年一緒にいるから。門さんとやった時も、あれ2013年？前にやった時。（[https://www.setagaya-ldc.net/program/7/?referer\\_top=on](https://www.setagaya-ldc.net/program/7/?referer_top=on) ※外部サイト）  
門 2011年に動画撮ったりして、展示が2012年にやってるから。  
原田 2011年に会ってるから、本田さんがまだ20代の時だ。もう今40代だもんね。  
岩中 これ、タイトルが《渋谷ザリガニ》って。  
原田 渋谷から帰ってきて描いたシリーズ。  
岩中 渋谷のインスピレーションを受けて描いた。



原田 人ごみとか、彼、大嫌いなんです。ただやっぱりね、日本一の人混みは連れとてっかないかんって思って、一緒に行ったんですよ。嫌だったんだろうね。密度がすごい。これ触ってもらって大丈夫。

岩中 ストレスが。

原田 幾何学模様の密度が。これ全部細かいじゃないですか、四角とかも。全部筆で描いてる。

岩中 こんなフラットに？グラフィカルに筆で描けるの？一個一個中に色が、違う色が入ってて、かっこいい。非科学的なザリガニです。

原田 ここ部屋入りますね。で、ここが今、この子はまた別の部屋にいます。で、今、目の前に本田さんがいます。今、ちょうど描いてるところ。まだ乾いてないんですけど。この辺は、余りものを積み重ねて、これ使ってるんですね。彼は、立体物もすごい作ってくれるので。

岩中 入口にありました、大きい犬が。

原田 あれは国交省で河川工事で使ってた工事のパイロン。あれを、もう古くなって捨てるので、それをもったいないから彼にアート作品にしてくれないかという依頼があって作ったんです。

岩中 それもかっこよかったです。今、筆で色をのせてってます。パキッとした。

原田 こんな線引けないですよ、筆で。

岩中 そうですよ。手書きなんですね。びっくり。

白鳥 職人芸っぽい。

原田 職人芸っぽいでしょ。下に濃い背景色のせてて、その上にオレンジ色をのせてるんで、下の色を拾うんですよ。透けて見えてしまうから、そのオレンジって、何層も塗らないと、下の黒い背景を消せないんですよ。それをずっと何層にも何層にも同じところを塗ってる。厚塗りしてる感じですね。ただもうこれって本当に面倒というか、気が遠くなる作業を、ずっと彼はやってる。

その隣に、さっき話した北村くんが絵を描いてる。最近、自分でデザインしてカッティングシートをカットしてスプレーで描くのから、ちょっと進化して、自分でデザインしたものをレーザーカッターっていう機械があるんですけど、彼がデザインしたものをデータを取り込んで、それを熱で木をカットする機械があるんですけど、それで形を切って作品にしている。

岩中 これがそうですか？

原田 触っても大丈夫？

岩中 ありがとうございます。すごーい。ここは手で塗ってる？

北村 全部手で塗ってます。

原田 お花の形。ちょっとキャラにした感じだね。お花がポップな。

岩中 かっこいいですね。グラフィカルで。パッと見、デザインしたものかと思いきや、よく見ると手描きで描かれてて、まっすぐな線とか曲線とか。

原田 それこそ渋谷って感じ。

白鳥 ポップだね。

原田 ストリートカルチャーとか彼好きだから。これを板のパネルに貼り付けるんですよ。

岩中 これをまた？

原田 また貼り付ける。あとで出来上がってる作品があるので、それ触ってもらようにします。ちょっとね、間にまた木をかますんよね。キャンパスの上にこれを貼るんだけど、ちょっと浮いた状態で貼るのと、キャンパスに綺麗に収まらないように貼るので、ちょっと飛び出した感じを描くっていうですね。

門 さっきのメッシュの。

原田 そうそう、作品ですね。

岩中 女性の顔が浮き上がってくる作品が壁に塗装して貼ってあって。でもそれも、その後ろにまたグラフィティみたいな作品の上に重ねて貼ってて、すごいストリート感がある。かっこいい。

原田 これね、さっきって、1個細かいカットしたやつ触ってもらったじゃないですか。あれが1版なんですよ。で、これは、これ何版かね？

北村 4ですね。

原田 4版。だからさっき細かいのが4枚あるんですよ。これを重ねていくと初めて1つの絵に見えるっていう方法で描いているので、さっき白鳥さんに触ってもらったカッティングシートが、実は細かいカットを4枚切ってるっていう。手作業で。

岩中 これはレーザーカッターとか使わないんですか？

北村 使わないです。

岩中 手作業の方が細かいところが調整しやすい？

原田 あとね、紙だと燃えちゃうんですよ。

岩中 そっかそっか。

原田 焼いて切るから。

岩中 紙は使えないですね。

原田 これぐらいの木だと、ちょっと焦げるは焦げるもんね、端はね。ただ切れるけど、紙はもうすぐ、ポツと燃えちゃうから、手作業でいくしかないです。

岩中 なるほど。

門 手作業だけど、すごくデザインの。

原田 そうなんですネ。

岩中 かっこいいですね。

岩中 ありがとうございます。

原田 で、出て今度「多目的室」っていう、みんなが自分のデスクでしたくない、広いところで出てきてやりたいっていう。

岩中 聴診器が壁にかかっている。病院の名残。

原田 僕がここで、ピクファやるときに、何もなかったんです、テーブルも椅子、本当に部屋だけしかなくて、その床にコロンってこれが一個だけ落ちてた。

岩中 触ってもいいですか？昔ながらの聴診器。

原田 これもう、うちの守り神として。

岩中 象徴的な感じですね。

原田 象徴的な「病院」です。

で、今ここがちょっと広いスペースになってて、音楽かかってて、今ここで1、2、3、4、5人が作業してます。ここは、どっちかっていうとガヤガヤしていいので、おしゃべりしたりとか、ちょっと大きいものを作ったりとかをやっているところですね。

岩中 すごい。龍ですか？龍を作ってる方がいて。立体です。触っていいところありますか？いいですか？すごい。この元の素材は何ですか？

中川原 布みたいな。

岩中 芯は何で？

中川原 芯はなんか、例えばアルミホイルの筒とか。

岩中 筒のところとか。繋げてるってことですね。竜の背びれがあって。うろこが全部一個一個ついている。

中川原 そういう素材があって。こういう素材があって。固い素材と布の素材。

岩中 色がすごいビビッドで身体が緑で。

中川原 玉を持ってる。

岩中 あ、玉を持ってる。爪で玉を持ってる。赤い背びれとかがあって。カラフル。ドラゴン。すごい。

門 尻尾までかなり長い。

岩中 ここに黄色いヒゲがビヨーンと出てます。

原田 ここ触ってもらうと、ちょっとこの緑のそこ固いんですよ。これは一番最初にリビングルームで描いてたキャンパスを緑色に塗って切って貼ってる。端材を使ってる。布みたい

なのもアパレルのブランドとかがサンプルで持ってるのが結局1年経つと使わないんで、うち、それをもらってるので、サンプルの布だったりリボンだったりで作ってるっていうですね。

中川原 目はフェルトでできた。

岩中 本当だ。顔がここに目があります。目はフェルトです。歯もすごいしっかり、ギザギザの。口の中までちゃんとある。

中川原 ここの奥にも舌がある。

岩中 本当だ。結構指を入れると。

原田 結構うち植物いっぱい実は置いてて、これはね、またちょっと後で話そうと思うんですけど、めっちゃ植物があるんですよ。

中川原 完成にしとこうかなと思って。

原田 これね。OK。

岩中 すごい。ここに中に鱗が入ってる。

門 結構素材のアップサイクルもしてる？

原田 意外とそうですね。全部が全部新しいの買ってやらなくても。あとは、いろんな人たちからももらうことで、いろんな人たちが出入りするんで、そこから会話生まれたりコミュニケーション生まれたりとか。もうほんと古い着物を持ってこられるおばちゃんもいるし、そこからグッズに。で、一緒に作ったりとかすれば、また交わるしっていう。どっちかっていうとアートを使って交流するみたいな。

岩中 カッコいい。ありがとうございます。

原田 奥に入ってきてもらっていい？ここでかい水槽があります。メダカが。ちょろちょろ音が聞こえるのが。今、鈴木さん (<https://picfa-shop.jp/collections/suzuki-yasuha> ※外部サイト) が目の前にいて刺繍？これ触って大丈夫？これ。今ね、初めてビーズを入れるのを試してる。ビーズどう？難しい？

鈴木 難しいけど楽しい。

岩中 ブドウのブドウですね。このブドウの粒の一つ一つに。ビーズになっているところもあれば、糸だけのところもあれば葉っぱが線で表現されている。

岩中 素敵ですね。着物。

原田 この前、着物を持ち込んでくれた方がまたいて、今、着物に刺繍をしている。

岩中 ここの部分を使うっていうのもすごいですね。

原田 昔の良い着物なんでシルクなんです。これもそうですね。シルクに今。

岩中 着物自体にも植物の模様がプリントされていて、それとブドウの葉っぱが絶妙に重なっていて、元々の生地とのコラボみたいな感じで面白い。すごいですね。この元のプリントの曲線が生かされた刺繍になっていて。面白い。

原田 どう？真っ黒にするのと元々着物に図柄に合わせたりしながら刺繍を入れるのって。

鈴木 楽しいですね。

原田 いろんな手法があっていいかもね。

鈴木 いろいろ試してみて。

原田 そしたらちょっと気が紛れるか。だって刺繍大変やもんね。

岩中 今も着物の生地、鯉ですか？

鈴木 鯉ですね。

岩中 鯉を刺繍している。

鈴木 今、鱗の部分にやってます。

門 こっちの紙の見本は自分で描いた絵ですか？

鈴木 はい。自分で。

原田 実はね、刺繍、彼女がしている植物とか動物は、全部自分で絵を描いて、それを刺繍している。

岩中 触っても大丈夫ですか？

鈴木  
岩中  
  
門  
岩中  
原田  
岩中  
原田

はい、大丈夫です。

今、刺繍している鯉の下絵を、輪郭を切り取って、ここに色鉛筆かな？下絵を描いている。

錦鯉なんだけど、もみじが1個紛れている。

ほんとだ。頭についている。すごい。

すごいな。

「相談室」って書いてあります。

ここが、もう暗いんですよ。簡易照明しかつけてなくて、通常この暗さでやってて、ここが、自閉症の人がパーンって弾けちゃった、パニック起こした人は、ここで暗い部屋でゆっくりしたり、精神障害者の人で、ずーんっと沈んでしまって周りから離れてちょっとゆっくりしたいっていう人が使う部屋。よくカームダウンとかカームゾーンとか言われるけど、僕はあんまりそういうのじゃなくて、カフェに行ったりとか何か食べに行くときって雑踏の中で食べたい、屋台で食べたいとか、あとはちょっと静かなところで食べたいとか、あとはフレンチのラグジュアリーなところで食べたいとかっていうのが、彼らって選んでも行けなかったりするんですよ。お金の問題とか、あと一番は、そこにたどり着くまでの、どのバスに乗ればいいのかとか電車がわからない。だったら、仕事この環境の中にこういう場所、ちょっと落ち着いてムーディーな場所、隣、さっき刺繍してたところは龍とか作ってた、おしゃべりしていい場所。あとは、それぞれの個室があって、自分のテーブルがあって。ただ、普段からちょっと静かにやりたい人は、静かな人たちとの個室。あと、さっき女性で点描で描いてたり、猫の絵を描いてるって言ってた、あそこは、おしゃべりさんなので、基本的に個室なんだけど、ちょっとおしゃべりが好きな人。野球盤のところは、どっちかというとなりで寡黙に作業をしながら。ただお客さんが来たらおしゃべりが好きな人たちだから、それぞれがしゃべれる部屋。いわゆる、そういう環境整備をやっているんで、障害特性をというよりは、個性。原田とか岩中とか門とかというような個性を、それぞれ大事にする。どっちかというとなりで障害の方を先に取っちゃって、白鳥さんであれば視覚障害で目が見えないから、そういう対応でって、やっぱりなっちゃうんだけど、僕はどっちかというとなりで、白鳥さんって、今まで情報いっぱい持ってたから、どんな人だろう、障害のことというよりは、白鳥さんの謎を解きたい。そうした方が早いんですよ。街の人が遊びに来たり子どもが来た時に仲良くなったり、野球盤で揉めたりとかね。揉めていいんですよ。それが、結局、障害者なのか健常者なのか、その場面では、もうわからない。いわゆる原田と岩中の野球盤の戦いみたいなね。そこに、見える見えないとかじゃない部分でっていうところをやった方が、人となりが見えやすいかな。だから、たぶん、うちに遊びに来るんだと思う。気遣わなくていいっていうところ。どっちかっていうと障害よりも個性を取るっていう。どうしても、自閉症だからとか、ダウン症は陽気で明るくてとか、それはわかるけど、こいつ天使みたいな顔してるけど、めっちゃ中身は悪魔っすよ、みたいなのをみんなに伝えていく作業を僕がするっていう。そうしたら楽しい。実はここ今相談室なんで、いわゆる支援の事業者さんとお話ししたり、家族と面談をしたりする部屋でもあるんですけど、テーブルの上に豹柄の布が敷いてあったり。

岩中  
原田

カモフラージュ柄の上に豹柄があったり。柄オン柄。

ここは年に1回から2回、スナックを僕たちオープンするんで、展覧会の時に。さっきジャニーズの写真と並べる子が、イケメン大好きなんですよ。イケメンが志村けんから松潤までストライクゾーンで、もう大暴投でも、ズバーンって捕るんですよ。展覧会とかになると2000人以上来るから。僕の洋服引っ張って「あの人紹介して」とか、「自分で行けよ」って言ったなら「恥ずかしいでしょ、女性を行かせる気？」みたいな。「あなたが紹介しなさい」みたいなこと言われるから、めんどくさいから、スナックをオープンして、彼女はチーママ、ママは近所の遊びに来てくれる人たちに頼んで、60くらいのおばちゃんがママしてくれて、彼女がチーママで、ここが公でイチャイチャするスナックに変わるっていう。それこそ、いろんな企業さんとか社長さんとかも来るんで、「来たよ、ユキちゃ

ん」って、ドンペリ持ってきたりとか、5万のワイン持ってきたりとか。

門 貢物がすごい。

原田 それをまた、近所の爺ちゃんたちと飲む。「これうまかねー」って。「いいでしょ、そのワイン」みたいな、「それ、いいやつですよ」みたいな仲、いいじゃないですか。そのために、アートとアトリエを作ってるっていう。だから、遊びに来る。

岩中 アートはたくさんあるけど、やっぱり人が一人ずつ立ってるっていうか、個々が見えるようにする工夫とか、みんなが選べる環境を整えたりとか。

原田 それが本当の意味での環境整備だと僕は思うんですね。日本福祉大学とかも、白鳥さんも現場行ってるからあれだけど、いきなり駅を降りてすごい長い坂があって、あれ全然、福祉大学にひどいんですよ。当時、白鳥さんとか僕たちが行ってた時代って、車椅子の人とか、僕がいたときは寝たきりのストレッチャーの子も学生でいて、別にスロープもなんもないんですよ。それは、学生たちが気づいた人が押したりとか、案内するのが。別にバリアフリーじゃなくてもいいみたいな考え方が福祉大学にあって、本当は金がないんだけどねって言われたけん、それ言わなきゃいいのになって思ったけど。実は根っこはそこにあるって、誰かが誰かを支えれば、別に障害が障害じゃなくなる時が来るっていう。それを実践すれば、障害者扱いされないって彼らも。ただ時折、なんかイライラしてバーンってなっちゃったりするけど、その時は、こういう特性があるんで、そうなった時は、こういう対応の仕方をしてくださいっていうのを、またスナックで話すとかね。ただ入りやすい、楽しめる、そんな感じです。

ここが「SP」っていう。

岩中 ここも緑が多いですね。

原田 ここが「SP」、「スタジオ・ピクファ」って呼んで。メンバーの撮影したりとか、あとは、ここもメンバー作業していいし、あとはスタッフが、さっきのパネルを張ったりとか。あとは打ち合わせ。テーブルが、今ここが8人ぐらい座れるスペースがあるので、ここで打ち合わせしたりとか。椅子とか、実は、うち、揃ってないんですよ。今、これ触ってもらったら分かるけど、昔の実家にあるような重厚感ある。

岩中 それに水色にペイントした。

原田 今度こっちの椅子触ってもらったら、ちょっと北欧っぽいオシャレな感じのね、流線系の。これ、なんでこんな違うかって、これも全部、もらいもんなんです。もらったものを自分たちで色塗って張り替えたりとか。これは、ちゃんとした家具メーカーさん。B品で出たっけん、そりゃいるやろって言ってもらったりとか。

岩中 すごい座りやすそう。

原田 これ僕なんでもらうかという、もらった人がまた遊びに来るんですよ。実際、これ青く塗ったら、「やらんとけばよかった」みたいな。「ピクファに頼んで塗ってもらえばよかった」、「そうやろ」って言いながら、「座り心地が良くなったね」って、またその人が「これ見て」って、「これ、あんなやつやったんやけど、こんなに変わったんよ」っていうのを、また見に連れてきてくれるっていうのが連鎖するっていう。

今、これがピクファの全部屋ですね。

(ジングル：ottotto「CLAP」)

第3話に続く